

## 誰でも“時間を操る能力者”に？

～ (世界初) 空という“時間”を、4年の歳月をかけて商品化 ～

「不規則な生活だったので、時刻だけでもみんなと一緒にいたかった」

2015年5月に日本健康促進医学会の学術大会で発表された、新しい心理的時刻へのアプローチを用い、相対時刻システムで商品化を実現しました。現代社会に求められている、メンタルヘルスケアへの期待も高く、ストレスの軽減だけでなく、効率化、生活リズムの改善、トレーニングなどにも注目されているシステムです。(国際特許出願中)

すでに朝型になった実例も出ています

今夏に施行された「ゆう活」、12月から義務化される「ストレスチェック」。これら生活リズムとメンタル、ストレスと、どれも密接に関係しており、社会問題にも繋がっています。現代のUTC（協定世界時）によって正確に刻む時刻と24時間社会の中で過ごすには、正直少々つらい時があります。

株式会社コンベックスコーポレイションは、時刻の位置と速度をコントロール出来る相対時刻システムと空を併せることで時間帯を錯覚させ、人間らしい時刻で心理面をサポートしてくれる製品の入門版「**空時刻® BASIC**」のiPhoneアプリを9月16日にリリースしました。取材ならびに記事掲載のほどよろしくお願いいたします。

自分の生活スタイルに合った空を持ち歩け、ストレスなく心理的時刻に働きかけます。

製品名： 空時刻® BASIC  
ホームページ： <http://sora-jikoku.com/>  
購入先： AppleStore / GooglePlay (6月末にサイレントリリース)  
価格： 2,800円  
展示会： 産業交流展 2015 (東京ビッグサイト 2015年11月18～20日)  
別紙資料： 記事「JOHOKU SHINDAN 誌 第7号」

※高度な設定が可能な「空時刻® PROFESSIONAL」は準備中です。

連絡先： 株式会社コンベックスコーポレイション 担当：窪田  
TEL：050-3631-5513 / FAX：03-6667-4684  
<http://www.convex-corp.co.jp/> e-mail：info@convex-corp.co.jp

# 新たなアイデアを形に ～ 時間錯覚アプリ “空時刻<sup>®</sup>” ～

株式会社コンベックスコーポレーション 様

2015年5月

1日24時間、世界中の誰もが平等に与えられている。しかし、同じ1時間でもその感じ方は人それぞれ。楽しい時間は矢の如く過ぎ去り、苦痛な時間は延々と続くように感じる。

この錯覚に着目した本アプリ「空時刻<sup>®</sup>」。時間の錯覚に加え、光を感じる機能を融合。その効果は、受験生の勉強の効率化、不規則な生活を強られる方々の生活リズムの修正、サラリーマンの終電逃がしの防止、といった身近なものから、精神疾患などの医療分野、工場における作業の効率化など、様々な可能性を秘めている。開発者である窪田さんにその想いを聞いた。

－ 中小企業診断士 岡本 陽介

## Q 思いついたキッカケ・目指すものは？

仕事の関係で不規則な生活が続き、食事の時間が一般的でないことにストレスを感じていました。川端康成などの文豪・手塚治虫が通ったといわれる浅草の老舗喫茶店「アンチエラス」のレトロな雰囲気の中で寛いでいる時、ふと自在に自分の時刻を作れたらと思い付きました。気分だけでも一般の時間帯で食事していると思えば、ストレスを軽減できるという軽い考えでした。

発案後、現代の時刻管理（定時法）がそもそも人間には良くないものだったのではないかと考え始めました。社会は24時間動き続け、スマートフォンの普及等もあり、人々は時間に追われています。しかし、スマートフォンも逆手に取れば良薬にもなり得ると思ったのです。未来に良い文化や環境を、時代に合わせた形で残していく「未来一号線プロジェクト」と称して取り組んでいます。

## Q 特許申請中のこのアプリの独自性は？

不定時法としての、時間をずらす特許出願は存在していたが、飽くまで0時から24時間の間のみ（0時は不動）のものでした。

これは、サマータイムや江戸時代の十二支で時を読んでいく不定時法の域を超えています。この出願内容は、世界を移動するグローバル社会、24時間社会に対応できる唯一の時計になります。



## Q 学会など、医療分野からも関心が？

これまで、生理学として進められていた分野に、心理学としてのアプローチが注目されており、大学の先生、研究者の方々に大変興味を持って頂いております。

私の主な仕事はコンテンツ制作で、デザインであれば訴求力、UIにしてもグルーピングなど、主に心理を意識することが多く、個人的に昔から興味があり書籍等はよく読んでいた分野です。そういったことが、今回に繋がっているのかもしれない。

## Q トレーニングなどにも使えそうですが？

例えば、毎日2時間、慣れていない勉強を続けようとしても、いきなり2時間の勉強は習慣化できていませんから無理です。よく、2時間座っているだけでも良いと聞きますが、達成感がなければ継続は困難です。

そこで、実際の時間の1時間を「空時刻」上で2時間にする、つまり、時間の速度を倍にすれば、1時間後、「空時計」では2時間経過したことになります。こうすれば達成感も味わえます。そして徐々に本当に2時間に戻していけば、結果的に2時間勉強できるようになると考えています。

## Q スマホ以外には、どんな可能性が？

実験で、少ない光量でも錯覚を起こせることが判明しました。大型テレビや、プロジェクションに接続することで、より効果の高い使い方が考えられます。

生理的な変化の検証がこれからの課題ですが、代謝調整による美容・ダイエットなどへの効果のほか、認知症の研究にも役立つ可能性があるのではと考えています。

その他、海外との行き来が多い客室乗務員、シフト制勤務の方、または特殊ではありませんが潜水艦乗務員など、人間生体として無理のある生活を強いられている方のストレスの軽減が考えられます。

また、スマホという通信機器という特性を生かせば、リモートで時刻を設定できます。専用の壁掛け時計などを開発し、部屋中の時刻を当時間に設定して、日常生活・オフィス・工場等の生産性向上にも取り入れることも可能かもしれません。

## 株式会社

## コンベックスコーポレイション

〒111-0052

東京都 台東区 柳橋2丁目

19番6 - 1202号

<http://sora-jikoku.com>

<http://www.convex-corp.co.jp>



空時刻®



窪田 治生氏